

第76号

平成18年10月16日

高三A 進藤剛至
高二D 難波将広

読書三昧

甲南中学・高校
図書館
図書委員会

芦屋市山手町

31番3号

実施報告

文化祭古本市

店長日誌

高三D 中岐 博和

一〇〇五年度の文化祭は恒例の古本市を行いました。古本市は沢山の人々が来店してくださり大盛況となりました。以降は店長を務めた現高三の中岐君が纏めたものです。ちなみに今年度は古本市は行いません。神戸在住のミステリー作家である『浅黄斑(あさぎまだら)』さんを招いての講演会を行います。詳しくは最終面を見てください。

去来、書

古本市の店長には読まれる。一学期型、経過して問題発生。本の回収率が例年を大きく下回った。このままでは古本市を開くために必要な量には達しないのではないかと不安が胸を過ぎる。やっべえ。

文化祭まで残り数週間。ここに来て本の回収率が急上昇。理由は不明。神の導きか。とにかく胸を撫で下ろす。

文化祭数日前 放線

後 図書館の半分を占領して本の分類・運搬作業に没頭する。予想以上の量(約千冊)に悪戦苦闘。こうすりエレベーターをフル活用して三階の教室に本を運び込む。店舗作業

店舗作業

成開始 商品の配買 販売価格設定、文化祭当日のシフトなど。やればできる店員たちの働きによって予想外に早く終了する。

文化祭前日 校内文化祭

祭りの日は店を開かない。シフトの確認だけを行い、その日はすべし解散。

文化祭日 客足は下方

全体的にモチベーションが高いのいいが、反比例して値段設定は大雑把になる。いいのだろうか。まあいいか。チャリテイなんだから。

午後 後半戦 値下げを英断する。全校放送を用いた反則技を使用。宣伝効果は高く、客足が回復する。委員権限強化。クレームは多し。高シヤズ部マシでめんなさい。

三時 閉店 文化祭も



業務終了。

店長後記

終了。そして祭りの余韻も冷めぬ間に片付けが始まる。造り上げるのに一週間。壊すのには、時間。毎年このことから慌ただしいなうちの文化祭とパネルを搬出しながらしみじみと考える。夕方。ささやかな打ち上げを行う。そして解散。直接聞っていない最後のやりたいことはほとんど話め込んだな、というのが業務終了後の感想。

文化祭としては十分満足。のいくものだったと思っております。というが大成功だったんじゃないだろうか今回の古本市。セルフ駄目出しもする余地がない。あえて問題点を指摘するならもう少し営業に走っても良かったかな。最後は店内物価が昭和にタイムスリップだったしなあ。ワンコイン三冊ってないやねん。ともあれ、最初から最後まで楽しかったの一言に尽きる文化祭だったのは間違いない。祭りには参加するより創るもの。物

2005年度古本市 データ

来場者数：1102人

購入者数：258人

売り上げ金額：63000円

売り上げ冊数：795冊

集まった古本数：1926冊

古本を提供してくれた人：59人+用紙入れ忘れの人々

目次

- ・文化祭古本市報告 (1)
- ・兵庫県私学 S L A 生徒交流会 (2)
- ・二〇〇六年 甲南・灘図書館委員会 交流会 (2)
- ・芦屋市議会議員 山村悦三さんへのインタビュー (3)
- ・読書紹介「TRICK」 (6)
- ・文化祭講演会のご案内

を売る側に回るのには本当に楽しい経験です。
最後に、古本提供者の皆様、一千冊近い圖書の提供、本当にありがとございました。収益金はチャリティーのために大切に使用させていただきます。そして参加メンバーおよび関係者の方々、高校時代の大きな思い出ができました。自分にとって最高の文化祭だったと思います。

この場を借りて、古本市に關つた全ての人々に最大限の感謝を、ありがとございました！

私立生徒
交流会
S L A
兵庫

高1A前中公壇

六月中旬に滝川中・高等学校にて、図書委員交流会がありました。この交流会は県内私立各校の図書委員が集まり、話し合いをし、交流を深めるというところを目的に行わ



れています。

今回私が参加した交流会では二つのジャンルの本についての話し合いというものでした。ひとつは「流行本、もうひとつは「政治・経済」でした。最初に全員集まって割り当てられる班を決め(二つのジャンルのうちでさらにいくつかの班に分けられます)、その後各班の教室に行き、話し合いを始めるといっ流れでした(今回私は流行本のジャンルの班でした)。皆今回のために読んで

きた本があるのかというところから話し合い始めましたが、人それぞれの様で、「特に今回のために読んだ本はない。」という人と、「私は」を讀んできました。「と言つ人に分かれましたが(ちなみに私は「チョコレート工場」の秘密)を読んでいき調とは言えず、お互い緊張してなかなか話ほとんど拍子には進みませんでした。各々が読んだことのある流行本について話が進みましたが、数人

での共通する本は何冊もあつたものの、全員が読んだことのある本は見つかりませんでした。話の中で一番読んだことのある人が多かったのは「ダ・ヴィンチ・コード」と「ハリー・ポッター」シリーズでしたが、これらも全員が読んだことのある本ではありませんでした。

その中で話がどういった風に流れたのか、図書館の運営・活動方法・方針の話が出てきました。そのほとんど(九割方)を司書さんや、先生に任せているうちの学校としては、意見を求められないようにひたす(こそこそ)しているしかありませんでした(話している人たちの学校は全部生徒中心でした)。

そんなこんなで話し合いの時間は過ぎ去り、発表の時間となりました(話し合いの後は各班で話し合いの結果を発表する形式となっていました。結局私のいた班は全員が読んだことのある共通した本がなく、結果「ダ・ヴィンチ・コード」をうち上げる形と成りました。が、他の流行本の班も全

部「ダ・ヴィンチ・コード」ばかりでした。前に書いたように流行本の班はどれも「ダ・ヴィンチ・コード」ばかりでしたので、途中で飽きてしまいました。ちゃんと話しした班もあるかもしれませんし、私の班のようになり一人の人の意見で決めてしまつた班もあるかもしれません。結果が同じ本で統一されたのはなせだったのでしょうか。今回あまり充実した話し合いということができませんでしたが、次の機会があるのなら、もっと本を選定して行えたらいいなと、思いました。

二〇〇六年
甲南・灘
読書交流会

六月十八日の灘甲戦の日に私達図書委員の何人かは毎年恒例の甲南・灘の図書委員交流会に参加しました。そして今回の交流会では話のタネとして最近テレビでも取り上げられた話題書の『国家の品格』



高1D 難波 将広

が選ばれました。『国家の品格』は簡単に言えば日本人の美徳を大切にしようとする日本人は一人一人しっかりと立ちまわらなければならないという内容の本です。それ故にナショナルリズムを含むとも思われる部分

も多々あり、解釈が難しく、本の解釈により大きく意見が分かれました。そして結局この本の作者の述べた主張の肯定派と否定派に分かれて討論を行うことになりました。

主に肯定派はこの本で多く述べられている「情緒>論理」に賛成、否定派はこれに反対しました。そうやって分かれた後に作者の「日本の文化は世界最高！」と受け取れるような主張をどう受け取るかで議論が白熱し、余りにも極端すぎるその主張の中にある「戦争で負けて過去の歴史を間違いとすると日本人に誇りを取り戻す」というこの本を構成する上で大切な作者の意図を自分はどう思うかを参加した生徒はそれぞれ腹を割って発表しあいました。

さらに、作者の投げかけた意思としてもう一つ大きなものに「あなたは殺人は何故だかと思つて、論理だけでいえる殺人は肯定することもできません。だからこそ論理の前にもっと大切なものが必要なのだ」というものがあります。世の中には論理的に正

しいと証明できるよつで矛盾した不確かなことがたくさんあります。その不確かなことの中に正義やら道徳といった本当に人が大切にしなければならぬような事の大部分は内包されています。

作者はそういう不確かなこと=情緒として大切にしようとするべ、それは論理よりも優先されるべき事として取り上げて日本人の持つ武士道精神を最もな例として挙げていました。そして「武士道を日本のすべての人が持つては日本を起きている様々な問題を解決できる」と受け取れるよつなことを述べていて私達は次にそれを議論的的として武士道というものについて考え、それが本当に様々な問題を解決するものとして使えるのかどうかといったことについて語り合いました。

この本を読んだことがあんなに多いと思いませんか？私としてはまず現実的に考えて全ての人が武士道を持つ事など出来ないと思っています。しかし、仮に全ての人が武士道を持ったとしたら、それで本当に多くの問題を解決

できるのでしょうか？

交流会に参加した人達は最終的にこの本を「筆者の思い描く個人的な理想論」とこの本を評しました。私としてこれに賛成します。この本は作者が口頭で述べたことを本にしたもので極論と思われるところが多々ありますが、それ故に作者の本音での理想論を知ることが出来ます。この理想を美しいと思つたかどうかは読んだ人によると思います。なかなか面白いものでした。

この読書二味を見ていゝるあなは「国家の品格」を読んだらどう思つたでしょうか？ 読んだことがない人は是非一度目を通してみる事をお勧めします。自分の理想論を持っている人は自分の理想と比較してみると面白いかもしれません。まあ、「いまいち交流会で議論する本には向かないなあ」といった意見が甲南・灘の両校で多かったです。

今回の交流会は充実したものとなりましたが反省すべき点も多かったです。その最も大きな点はあまりにも甲南側の発言者が少なかつたことです。

色々な物事をもつとよく知つておけば今回のような失敗はなかつたと思えます。歴史や哲学などだけではなく平和ボケしているから「戦争や災害、貧困など自分たちにはあまり関わりのない事を知らずすべきです」。真に理解することは平和な国に生まれられた私達にはできないでしょうが、それだけではありません。来年は誰もがそれぞれよく様々なことを学び自分の意見を持つて交流会に挑むようにしたいです。真面目にこれを全て読んでくれた方々、ありがとうございました。



今回の交流会の題材となった本
 書名：国家の品格
 著者：藤原正彦
 出版：新潮社
 分類：304 F

芦屋市議会議員 山村悦三さん への インタビュー

高三A 進藤剛至

ものが私の人生なので私の育ての親であり、学校でもある、「人生の故郷」といった感じ。だからこの議員活動を通して、私の出来る限りの範囲で恩返しをさせて頂きたいとも思つた。

Q 具体的に芦屋市の特徴とは？

A: 地史にはあまり載っていないのだけれど、芦屋市は「地域社会」が創つていった街であるといつことが、一つの大きな特徴だと思つた。芦屋は昔から政治力の強い街だったからこそ市民が主体となつて、街を創つていかなければならなかつた。俗に言う「集落意識」があつたと思つた。そのよつな市民の自治意識が今の芦屋を創つていった。だから今の芦屋は、「国際文化住宅都市」という特徴があるけれど、それも全て先祖の方々地域社会が、政治力も何も無い所から創つていった努力の賜物だと思つた。だから私は芦屋の先祖の方々は偉かつたのやなあと思つた。

Q 山村さんは芦屋市をどうのよつな街にしていきたいですか？

A: まずは、議員活動をする以前の問題として、江戸時代から引き継いでいる良い文化を、大切にしたい。例えば「住毛都市」としての特徴、最近の地域社会は、人間関係が希薄になつてきていると思つた。なので、少なくとも同町内くらいの人と顔を、お互いに知っているという位の街にしていきたい。それが結局、「安全」、「安心」の街づくりにつながると思つた。昔は物のない時代だったから、皆が共存できる様に助け合いの精神が非常に強かつた。その昔のよつに、「心の共有する助け合い」が出来るといい。また、ハード面で「高級文化住宅都市」、「国際文化住宅都市」として残つていて欲しいのだけれども、最近「相続税対策」の問題で、お屋敷が少なくなつてきている。しかし、そのような環境の中でも、住民の心だけは萎縮することなく、広く大きく持ち続けられるよつな、そんな街にしたい。

いきたい。「芦屋の人々はみんな良い人だなあ」とみんなが思つてくれるよつな街にしていきたい。それには、行政の応援する部分もあるのだけれど、やはり市民の一人一人が自治意識を持ってやつて頂きたい。私達は、様々な催し(桜祭りや花火大会、檀丸などを開催しているけれど、その目的は結局そこにあるわけだから、地域の方々の交流を深めて頂くという意味でね。

Q 山村さんが政治家を目指すようになった理由は何ですか？

A: 一番の大きな理由は、私の当時の学歴は中卒であつて、「中卒でどれだけ市民の信頼を得られるのか」という世間への試し、自分への挑戦というものであつた。(議員就任中、県立書道高校卒業、何故かのように思つたよつになつたのか)と、私の息子と息子の同級生が中学生の時に登校拒否をした。私の息子は転校して復帰したのだけれど、

いきたい。「芦屋の人々はみんな良い人だなあ」とみんなが思つてくれるよつな街にしていきたい。それには、行政の応援する部分もあるのだけれど、やはり市民の一人一人が自治意識を持ってやつて頂きたい。私達は、様々な催し(桜祭りや花火大会、檀丸などを開催しているけれど、その目的は結局そこにあるわけだから、地域の方々の交流を深めて頂くという意味でね。

その息子の同級生はずっとと荒れたままだった。それで当時からは地域活動として、「青少年愛護委員」をやっていたので、その息子の同級生をよく引き取っていた。私自身、学歴が中卒だったものので、「学校に行かないのなら就職しろ」と私はその子に言った。しかし、その子の父親は、「中卒だと世間で通用しないから学校に行け」と言った。まあ親の気持ちはみんな同じで、特にそのお父さんはお医者さんだったのだから、そういうのも分からないことはなかったのだ。が笑。しかし私はその意見に、反発心を覚えた。その一言を聞いて、私は中卒でも人生はやっていけるということを知り、選挙で当選することによって証明したかった。自分の為に子供のために。当時から私は「お祭り」に参加したり、「青少年愛護委員」をしたり、地域活動を頻りにしていたから、それなりに地域の方々は私を知って下さっていた。しかし、選挙に出たときに中卒の私がどれだけ信任されるかということを確認したかった。世

間では「建前」と「本音」があるけれど、普段、表せない「本音」の部分を知ることがあった。そして最初の選挙は落選したものの、700票頂いた。もう一つの方が747票で当選された。つまり私は最初の選挙では次点だった。しかし、もし頂いた票の数が350票とか、筆にも棒にもかからない数字だったら、私の生き方は変わっていたと思う。議員なんてやってなかったと思う。やはり落選したものの、700票も頂いたということも本当に有り難いことだった。普段から熱心に地域活動に取り組んでしている私を、私という人間そのものをしっかりと市民の方々は見てくれていたのだと実感した。それを通して世間の「建前論」と「本音論」が結構くっついていて、いるということも良くわかったし、人々の心の広さを感じることが出来て、本当に選挙に出て良かったと思う。

たからだった。つまり自分の中にある劣等意識を打破したかったということかな。Q 議員に当選するまでの具体的な道程は？ A 私は三歳のときに父親を亡くしたから、決して裕福な家庭ではなかった。だから家庭の為に中学生のときは新聞配達をして、稼いだお金は全て母親に渡して生活していた。また当然、母親は働いて、帰ってくる時刻は遅く、夕食を食べる時刻もいつも遅かった。そういった家庭環境の影響もあって、たかもしれないけれど、学校の勉強はあまり出来なかった。そんな家庭で育って、中学校を卒業してすぐに工場に就職した。工場で稼いだお金も全て母親に渡して生活していたが、生活していくには、もっとお金を貯めなければならぬという時、当時、タクシীর運転手の給与が歩合制で物凄く良かったから、二二歳の時にタクシীর運転免許をとって運転手として働いていた。仕事上、夜遅くにな

ることが多かったから、夜食を食べる友人の屋台のラーメン屋さんによく行っていた。それで、その屋台主と話している内に、屋台はタクシীর運転手と違って、独立しているから儲かるということが分かった。それで自分も屋台をやろうと思って、その友達屋台主に色々教えてもらって、自分も屋台をやることにした。そういう人との出会いもあった。だから改めて人との出会いは大切だと思つた。その人には屋台をやる際にも、ガレージを買してもらった。また近所の人は私の屋台で食べてくれたりして、本心は有り難かった。地域社会の有り難さを感じた。最初の売り上げはなかなか敵しかったけれど、一年くらいしたら、家庭を養えるようになって、一年目くらいからは、タクシীর運転手時代の給与分くらいは貯金できるよになった。それからずっと屋台をやり続けている内に、土地を買って、店舗を構えて、どんどん店を大きくして、弁当屋さんもやっていく内に、一千万円くらい溜

まった。丁度、そうしている時に息子が不登校になった。まあ私も家内も店の仕事で忙しかったから、面倒をあまり見られなかったということも、不登校の因かも知れない。なので、子供には少

し苦労をかけたと思う。私もそういう家庭環境で育ってきたから、無頓着だったかも知れない。そういうことで商売も順調に行つて、マンションも建てている内に、息子が不登校になった。

とから、先程述べたように学歴のことを意識するようになって、選挙に出たということ。だから息子が不登校になっていなければ、議員には成っていなかったと思う。

山村悦三氏【プロフィール】

市立山手小学校卒業 市立山手中学校卒業 県立青雲高校卒業

【主な議会活動歴】

- 平成三年 市議会選挙初当選
- 平成八年 市議会副議長
- 平成十一年 市議会選出監査委員
- 平成十四年 阪神水道企業団議員
- 平成十七年 市議会議長
- 平成六年 総務常任委員長
- 平成十年 文教公企常任委員長
- 平成十三年 決算特別委員長
- 平成十六年 議会運営委員長

【政党】

自民党芦屋支部常任顧問

【受賞歴】

- 兵庫県消防協会長精積賞受賞
- 青少年育成県知事表彰受賞
- 自治会運営市長感謝状受賞

【地域活動】

- 青少年健全育成愛護協合理事
- 山手消防団部長、指導員
- 山乃町地車愛好会代表
- 山芦屋町自治会長
- 県青少年健全育成運動推進員
- 三条コミスク運営委員
- 三条地区自主防災事務局



Q:そうですか。その山村さんの人生経験から、若者に伝えたいことはありますか？

A:まず、学生には勉強に励んで学生の間に基礎学力を身に付けて頂きたい。工場で製品を加する為に図面を設計する仕事は、図上で学んだことが役にたつし、簡単な計算をする際にも数字で学んだことが生かされた。だからと言って大人が「勉強しろ」と言うて子供のお母を叩いても逆に子供は潰れてしまつが、私は学生には勉強をすることを勧める。職業として学力が役立つというところを知って欲しい。それと、「人は真面目に」ということを知り、世間の人は必ず認めてくれる」ということを知って欲しい。私はこの議員活動を通して、学歴が中卒にも関わらず、私が議員に当選することができたのも、普段から地域活動に「こつこつと」励んでいる私を市民の方々が見て下さっていたからだと思います。多くの若者は世の中に対して不信任を抱いているけれど、「世の中そんなに悪いものじゃない」ということを、私という人間を通して知ってもらいたい。私を通して、そういうことを発信したい。

次いで、お金のことに閉じていへば、昔の若者の働く目的の基準は、家庭の為に親の為に何かというものでした。しかし、最近の若者の多くの働く目的の基準が、自分の小遣いの為、欲深さというものになっている。それは、私はどうかと思う。稼いだお金の七割は自分の小遣いにして、残りの三割は家庭の為に何かというものが出来る若者が、世の中の素晴らしいリーダーになっていくと思ふ。若い時分に自分を律する部分を創つていけば、きっと良い大人になれる。以前、堀江さんの事件もあつたけれど、彼は彼で良い面もあるだろつけど、やはり結果として生き方を外したと思ふ。「こつこつと汗を流して稼ぐ」といふ、そういう生き方も私は大事だと思ふ。そして最後に、「自分のやったことに悔いを残さないこと」。大人になれば全て自己責任になるから、悔いを残さないように精一杯頑張るといことが大事。世の中や他人のせいにしてはいけません。勿論、他人のせいである部分も少しはあるかもしれないけど、やはり、自分のやりたいことをしっかりと見据えて、進んでいくべきだと思ふ。この会社が嫌だとか、この学校が嫌だから辞めるといふことでは無いにね。

Q:そのように若者を育てていくうえで、現代の教育についてどのように思われますか？

A:「青少年愛護委員」の活動で街頭巡回をしているときに、甲南生が煙草を吸っていた。それなら、あるお母さんが「え、甲南の子でも煙草吸いますの？」と言つた(笑)。市庁の子も甲南の子も年代は一緒だから、学校に関わらず、吸つ子は吸つ。だからそういう意味で、そういう偏見をしてはいけないと思ふ。勿論、学校によつて学習の中心は違つてもいいけれど、そういう目で子供を観ると

子供は荒れてしまつ。大人がそのように圧力をかけると子供潰れていく。例えば、100メートルを10秒で走れる子もいる。しかし、15秒でしか走れない子に10秒で走れと圧力をかけても、子供は潰れてしまつだけ。ただ遅く着くか、速く着くかの違いだけで、能力の無いものも有るものも完走しているという点では一緒。そういう見方が教育においては大事だと思ふ。だから煽るといふ意味では無いけれど、その子の長所を見つけて上手に褒めて、是正してあげるといふことも大事。そして、勉強も大事だけれど、人格形成という意味で家庭環境も大事だと思ふ。例えば両親が家でいつも喧嘩しているようでは、子供が喧嘩した時に親が注意するにしても何の説得力もなくなる。人に優しくしなさいと言つても、親が人に優しくしていないければ説得力は無いだろつし。また、自分が親から受けた教育を、自分の子供にも施すよつになるかというのが一般論だから、そういう意味で

家庭環境の影響は計り知れないと思ふ。中にも反面教師もあるのだけれども、人格教育においては、やはり家庭の影響が大きくなると思ふ。一番響き合っているものだから、Q:有り難うございます。少し政治の話から逸れてしまつのですが、山村さんの人生で、影響をお受けになつた人物、書物をお聞かせ下さい。

A:やっぱり、男の子だったらみんなそれぞれ憧れはあると思つけど、私は伝記物をよく読んでいた。豊臣秀吉、織田信長、徳川家康、宮本武蔵、勝海舟、桂小五郎、伊能敬、そついつのはみんな良く読んだ。自分の人生を照らし合わせたとき、豊臣秀吉なんかはやっぱり参考になるし、田中角栄さんもいるし、私より苦勞なされている方もいるのだな。エジソンや松下幸之助なんかでも、色々なことがありながらでも立派な發明をされたし。そついつ伝記物のなかで、学んだものは大きかつたな。そついつ人達のお陰で今の日本がある

のだけだ。私はそついつ人達に比べれば、小さい人間なので、そこまで大きなことは出来なないけど、少なくとも地域の中で文化を創るとか、身近にい

Q:わかりました。この度は本当に有り難うございました。

与えていくとか、そついつことが出来れば嬉しいな。



『みんなのイチオシ』

最近、図書館では『みんなのイチオシ』という小さなプリントに自分のイチオシの本を書いて紹介するイベントが始まりました。この『みんなのイチオシ』で紹介した本はブラウジングコーナー窓側の横に展示場を設け、図書館に来た生徒達の目に触れることができるようになっており、紹介のあった本の内2,3冊は次の読書三昧から随時図書委員のコメントと共に記載していこうと思ひます。さらに紹介された本は図書館にない場合、図書委員と図書館で購入を検討するので、自分が少しでも面白いと思つた本があればじゃんじゃん紹介してください。

文化祭図書委員企画 ミステリー作家

「浅黄斑(あさぎまだら)氏」 講演会 ご案内

今年の文化祭で我々、図書委員はミステリー小説の作家である浅黄 斑(あさぎ まだら)さんを招いての講演会を視聴覚教室にて午前10時30分~12時30分まで行います。

斑さんは1946年兵庫県神戸市生まれ。92年『雨中の客』で第十四回小説推理新人賞を受賞し、作家にデビューしました。

浅黄さんの文章はしっかりとした構成と手堅い文章をベースに、リアルな登場人物やトリックを盛りこんだ本格推理小説と呼べるものが多く、最近では時代小説の執筆も行っています。どの作品も成熟した文章で安心して楽しめるものばかりです。

さらに作中では地元である兵庫県を数多くの作品の中で取り上げていて、阪神大震災から復興した地元をミステリースポットとしてアピールしています。

甲南の図書館にも何冊か浅黄さんの著作は置いてあるので興味を持った人は是非とも貸し出ししてください。

生でプロの作家の事を知るいい機会となっています。文化祭当日は多くの方がご来場することをお待ちしています。



出版：有楽出版社



著作の一例
**走る死体
ペットマムの
事件簿**

分類：y.あさ

読書紹介「TRICK」

高二D 高野 匠史

言わずと知れた名作なので細かいことは省略しよう。手品師としての名声はないが次々と難事件を解決する「山田次郎」と日本科学大学助教授でありながらも本編ではない知識よりも通信講座で習った空手での活躍する「上田次郎」の二人が織り成すミステリー作品である。

この作品の魅力はなんと言っても登場人物の性格であろう。山田が解決した事件を上田は「自分の活躍です」と警察に言うし、山田も上田に呼ばれる時には五月月分の家賃を平然と要求してのける。もちろんこの二人の他にも山田の熱烈なファンとかすぐにサボる警察官が登場し、物語を盛り上げる。この本には全部で五つの話が収録されているが、主要な人物は全て犯人に当たる人物は違つゝ実にサツと読むことが出来るのも魅力の一つである。

続いて内容は、全五話のうち一四話はそれぞれ「呪術人を殺す聖母」、「なんでも消す男」、「パソナイム」人を殺す女、「記憶を透視する男」と山田が対決するドラマやマンガでも馴染みの話で、その伏線を第五話で一気に解決するという形を取っている。

話は実にシンプルだが、山田が職探しをする又は上田が変なことに首を突っ込む、山田、上田に出くわす又は上田、山田助けを(結構傲慢に)求める、能者(犯人)登場、捜査、解決を四話まで繰り返して展開する。第五話も少し変わるがこのノリで進んでいく。(このあたり「古畑三郎」に通ずる所があるかもしれない。こつちも始めが犯人がわかってるのがユニークで実に面白い)細かいところはネタバレになるので伏せるが、どの話もドラマの原作を知っていても楽しい。そして何よりも難



TRICK the novel
トリック novel

分類：y.とり

出版：角川書店
著者：百瀬しのぶ

しいことは抜きにして楽しめる独特のノリが良い。結局この本をどう思うかは読み手しだいだが取り合えず手品やお笑い好きの方がウケはよきそうである。

編集後記

よやく一学期一学期母国となりましたが今年度初の読書三昧を発行することが出来ました。時間が過ぎるのは早いもので、体育祭も終わり、すっかりと読書の秋と言われる季節となりました。自分のオススメの本の紹介をする『みんなのイマオシ』も始まっているので、この機会に出来るだけ沢山の本を読んで甲南生に自分の好きな本を広めるのも一興です。

今回の読書三昧の編集は現高一が初めてメインとなつて行ったので不精なところが多いかもかもしれませんが、これからはどうか図書委員を温かい目で見守ってください。今回の読書三昧への皆様の御意見・ご感想をお待ちしております。

(図書委員一同より)



